

Q. 現在の行政の仕組みが時代の変化、今の社会にあわなくなってきているのではないかと、その中でリーダーシップ論を聞く

A. さまざまな意見の中で、適切な判断をし、スピード感、一体感を持った市政運営をしていく



ここを聞きました

- 公共マネジメント「これからの行政に求められるリーダーシップと公共経営におけるダイバーシティマネジメント」について
- 「高梁市まち・ひと・しごと総合戦略」について
- 少子・高齢化、人口減少下での学園文化都市づくりとダイバーシティについて

「公共マネジメント」について

大森 首長のリーダーとしての資質で（市民、議会、市職員との）信頼関係の構築は最も重要であると思うが、市長のリーダーとしての在り方を聞く。

市長 お互いを尊重、信頼することが一番。それを念頭に、心新たにさまざまな問題に対処していく。それができなければこれからの市政運営はできない。

大森 現在の市政、議会を見ると、その信頼関係の構築ができていないように見える。そのような状況の中で、来年18歳の選挙権がスタートする。次世代の若者に対するメッセージがあれば聞く。

「まち・ひと・しごと総合戦略」について

大森 山田方谷のDNAを生かした、補助金に頼らない補助金を使った独自の地域資源、資本、人材を生かした、経済観念をもった持続可能な戦略の構築（PPP、PFIなど）を考えてはどうか。

市長 そのとおりに思っている。もっと広い意味で、循環型の持続可能なまちづくりを推し進める。

「国際交流都市を目指したインテリッシュタウン構想」について

大森 インバウンド観光、英語教育、生涯学習も前提にした行政の新たな仕組み（国際交流課の新設、外国人枠の設定、吉備国際大学との連携等）とまちづくりを。

市長 柔軟に対応していきたい。

Q. 副市長の覚悟を問う

A. 次の方針を決定に導いていくことが私の責務だ



ここを聞きました

- 米づくり農家を応援するふるさと納税の実施について
- 図書館のCCCへの指定管理委託と高梁市立図書館指定管理者業務要求水準書について
- 旧朝霧温泉「ゆ・ら・ら」の場外馬券場転用のための売却取りやめについて

宮田 今回の旧朝霧温泉「ゆ・ら・ら」売却に関して、市民に対して不安や憶測、動揺を与えた責任をどう考えるのか。

政策監 市民の皆様方にいろいろと御心配をおかけし、大変申し訳なく思っている。

副市長 地元の松原、神原の皆さん、そして市民の皆さんに御心配をおかけしたことについては、まことに申し訳なく思っている。しかし、手続的には何ら間違ったこととはしてないと思っている。

市長 今回の結果を受けて今度どうするかという議論になる。それを全うするのが我々の責任であると考えている。

宮田 3月議会で副市長、政策監は自分の進退をかける気概で事に取り組んでいる。



Q. 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略策定は市民一人ひとりの生活向上を念頭に

A. 策定に当たっては各種団体や市民の意見を十分に聞きオリジナルティあるものとする



ここを聞きました

- 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略について
- 農林業の振興について
- マイナンバー（国民総番号）制度について
- 中学校教科書の採択について

難波 「地方創生」が打ち出された背景は、長年続けてきた大企業優先の政治が地域産業を衰退させ、地方から人口が流出したことにあり。

そして、地方消滅論まで言われるようになった中、各地方から政府へ地域再生の要望が強く求められ、それに応える側面と、財界・大企業が求める「規制緩和」を一層進めるということではないか。

政策監 経緯は日本創成会議が5月8日に将来の人口を見通して、消滅可能性都市が出てくるという中で、政府がまち・ひと・しごと創生本部を設置し、その後法律を成立させたことにある。

難波 本市が「自治体消滅論」が出るほどに衰退してきたのは、一

口で言うのと家族農業を破壊したことで後継者が育たず、商工業へも影響を及ぼし地域経済が衰退したからではないか。

政策監 人口が流出することは、同時に若い世代も流出することであり、本市にも見られる現象である。当然、農業の後継者やその他にも影響があると考ええる。

難波 本市の総合戦略策定に当たり「地域が豊かになる」ためには、住民一人ひとりの生活が向上することを念頭にしたまちづくりが必要ではないか。

政策監 策定に当たっては「産・官・学・金・労」と婦人、青年の意見を十分聞き計画する。

市長 高梁市のオリジナルティのある計画にしたい。

委員会報告

総務文教委員会

委員 軽自動車税の増税については、市はどう考えているのか。

執行部 現在の軽自動車は、車の価格や重量、環境負荷などは、普通自動車とほぼ変わらないので、自分の負担を求めるものである。

なお地方税法で1.5倍まで高く課税できるが、本市では地域間の公平などの観点から、標準税率を適用した。

委員 高梁市奨学金貸付条例の一部改正は、定住促進の観点から、高校・大学を卒業後も市内に定住すれば返還を免除するものだが、居住を求めることにより、将来の選択、希望を閉ざすものになるのではないか。

執行部 奨学金制度は、経済的理由で就学が困難な者に、無利子で貸し付けるもので、主旨は変わらない。

その中で、市内に定住された方には返還を免除する規定を追加したものである。

市民生活委員会

委員 高梁市医学生奨学金貸付条例は医学生に月額20万円以内を無利子で貸し付け、市内の医療機関で医師として一定期間従事すれば返済が免除されるもので、良い制度と思う。市内の医師不足はどのような状況にあるのか。

執行部 本年4月の聞き取りでは、4病院で6名程度不足しているとの回答であった。

委員 予算では2名分を計上しているが、予定はあるのか。

執行部 予定はない。ぜひ申し込みをしていただきたい。

委員 旧「ゆ・ら・ら」に付けた160万円の内容は、

執行部 大きいものは改修工事費の53万2000円で、保安上の管理のための電気工事費である。委託料の38万9000円は警備保障業務を委託するものである。

委員 なぜ保安上の管理が必要なのか。

※1 PPP…(パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携) ※2 PFI…(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)